

舞姫の現代における価値について

はじめに

この作品は 100 年以上前のものであり、当時の「立身出世」という考えは現在では受け入れがたいものとなっている。しかし、それでも舞姫という作品が読まれ続けられ、国語の教科書にも登場している。これはどういった点が評価されているのかを考えてみようと思った。

この作品は、自分と同じ価値観を持った人ばかりではないということ、それを知ること、伝えることの大切さを考えることができるという点で現在でも評価されているのだと思う。

本論

この結論を裏付ける根拠は次の二つである。

①豊太郎の性格について

②相沢の行動について

①について、豊太郎は友人に対して「No」と言えなかった。このためエリスと別れるように助言した相沢に対し、自分が辛い中でも楽しい日々を送っていたことを伝えることができなかった。さらに、豊太郎の性格が災いして天方伯と帰国することになったが、その道中で豊太郎が感じているのは「恨み」である。このことから、豊太郎が相沢や天方伯に自分の意志をはっきり伝え、エリスと別れることがなければ楽しい生活を送ることができたはずである。

②について、まず、相沢の行動は全て豊太郎のことを思っていることである。これは豊太郎が免官となったときに仕事を与えたことや、天方伯に豊太郎を紹介したことからうかがえる。しかし相沢は、豊太郎は再開したときにも他の若者と同様に立身出世を目標としていると思った。だから失った地位を取り戻させるために天方伯に紹介し、エリスと別れることをすすめたのだ。しかし、自分の価値観の中での成功は豊太郎にとっては幸せではなかった。それでも相沢は自分の価値観を押しつけてしまい豊太郎とエリスを別れさせてしまったので、憎まれることになったのだ。

まとめ

以上のことから、価値観の違いから生まれた悲劇を通して自分の意思を伝えるということ、相手の意思を尊重することについて考えることができるという点が現在も舞姫が評価されている理由だと思う。

解決できなかったこと

これまでの時代の変化に合わせて評価のされかたが変わってきたのではないかとということ。

参考にしたもの

教科書 国語便覧